



記者発表資料
平成28年7月21日
本資料の発表をもって解禁

## 災害を「伝える」「学ぶ」地域づくり ～「横田切れ」120年シンポジウムを開催します～

今年、越後平野に未曾有の被害をもたらした明治29年の大水害「横田切れ」から120年、信濃川中・下流域に甚大な被害をもたらした平成23年の新潟・福島豪雨水害から5年を迎えます。

この節目となる年に際して、『災害を「伝える」「学ぶ」地域づくり』をテーマに、過去の災害に係る歴史・経験の地域における共有、それを活かした災害に強い地域づくりについて考える機会となるようシンポジウムを開催いたします。

日時：平成28年8月28日(日)  
13:15～16:45(12:45開場)

場所：燕市文化会館  
新潟県燕市水道町1-3-28  
(入場無料)

主催：国土交通省信濃川河川事務所  
同 信濃川下流河川事務所  
燕市

※詳しくは別紙の開催チラシをご覧ください。



つながろう! 防災・減災

シンポジウム関連イベントを実施しています。

スケジュール、問い合わせ先を以下のURLでご案内しています。

<http://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/ohkouzu/yokotagire120/yokotagire120.html>

### 同時発表記者クラブ

新潟県政記者クラブ、新潟県政記者クラブ  
長岡市記者会、長岡地域記者会  
三条市記者室、十日町記者クラブ  
小出郷新聞、小千谷新聞、越南タイムス  
FMゆきぐに、エフエム魚沼、業界紙

### 【問い合わせ先】

国土交通省 北陸地方整備局 信濃川河川事務所  
広報担当 専門官 小林 正夫  
電話 0258-32-3020(内線216)  
FAX 0258-33-8168

# 「横田切れ」120年

## シンポジウム

— 災害を「伝える」「学ぶ」地域づくり —

皆さんは「横田切れ」をご存じですか？

今から120年前(1896年)の、信濃川で記録に残る最大規模の洪水で、現在の燕市横田などで堤防が切れ、越後平野一帯は長いところで数ヶ月にわたって水浸しとなり大きな被害に見舞われました。この大被害を機に、明治初期に一度中止された大河津分水路建設を望む声は再び高まり、1909年着工、1922年に通水となったのです。

それ以後、信濃川の堤防が切れることは一度もなく、地域の安全・安心を守ってきました。「横田切れ」が発生した1896年は、奇しくも東日本大震災で幾度もふれられた「明治三陸大津波」が起こった年でもあります。東日本大震災ではあらためて、過去の災害の記憶・記録を伝えていくこと、そしてその学びを地域の防災・減災力の向上に活かしていくことの大切さが広く認識されました。

本シンポジウムは、『災害を「伝える」「学ぶ」地域づくり』をテーマに、過去の災害を地域でどう共有していくか、それを活かした災害に強いこれからの地域づくりについて考えることを目的に開催します。

▶ **日時** 2016年8月28日(日)  
13:15~16:45 (12:45開場)

▶ **参加者募集** **参加無料**  
聴講をご希望の方は、  
ウラ面の申込方法をご確認ください。

▶ **会場** 燕市文化会館 燕市水道町1-3-28



駐車場は容量に限りがあります。  
複数でお越しの方は乗り合わせていただくなど、  
ご配慮くださいますようお願いいたします。



共催：国土交通省信濃川河川事務所・信濃川下流河川事務所、燕市

協賛：一般社団法人北陸地域づくり協会

後援：大河津分水改修促進期成同盟会、信濃川改修期成同盟会、信濃川・中ノ口川治水事業促進期成同盟会、新潟県、新潟県教育委員会、農林水産省北陸農政局、新潟県土地改良事業団体連合会、西蒲原土地改良区、新津郷土地改良区、亀田郷土地改良区、白根郷土地改良区、福島江・刈谷田川大堰土地改良区連合、新潟県河川協会、一般社団法人日本建設業連合会北陸支部、一般社団法人新潟県建設業協会、一般社団法人建設コンサルタント協会北陸支部、一般財団法人河川情報センター新潟センター、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、日本経済新聞社新潟支局、産経新聞新潟支局、日刊工業新聞社・新潟支局、株式会社建設速報社、新潟建設工業新聞社、日刊建設通信新聞社新潟支局、日本工業経済新聞社新潟支局、日刊建設工業新聞社北陸総局、建設ジャーナル社、産業新聞社北信越支局、鉄鋼新聞社新潟支局、北陸工業新聞社新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、N S T、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、エフエムラジオ新潟、F M P O R T 79.0、ラジオチャット・エフエム新津、F M K E N T O、F M ゆきぐに76.2、F M ながおか80.7、燕三条エフエム放送株式会社、エフエム角田山ぼかぼかラジオ、株式会社エフエムとおかまち、F M うおめま(エフエム魚沼株式会社)、NPO法人信濃川大河津資料館友の会



# 「横田切れ」120年シンポジウム

## －災害を「伝える」「学ぶ」地域づくり－

- ▶ **プログラム** 13:15 ▶ **アトラクション** 「ヨミワケ太鼓」(燕市立島上小学校 5,6年生)  
 13:30 ▶ **開 会**  
 13:35 ▶ **防災教育「学び」レポート**  
 ①燕市立島上小学校 ②燕市立小池中学校 ③新潟県立新潟県央工業高等学校  
 14:25 ▶ **講 演** 『温故知新－次の災害への備えを考える』  
 田村 圭子 (新潟大学危機管理本部危機管理室 教授)  
 15:15 ▶ **パネルディスカッション** 『災害を「伝える」「学ぶ」地域づくり』  
 パネリスト: 五十嵐 一浩 (魚沼市立湯之谷中学校 校長/前 三条市立第四中学校  
 (五十音順) 岸 和義 (中越市民防災安全士会 会長)  
 篠田 昭 (大河津分水改修促進期成同盟会 会長/新潟市長)  
 鈴木 力 (燕市長)  
 高橋 直子 (新潟日报社 論説編集委員)  
 コーディネーター: 犬飼 直之 (長岡技術科学大学 環境社会基盤工学専攻 助教)  
 16:45 ▶ **閉会**  
 \*本シンポジウムは、(一社)建設コンサルタンツ協会CPD(継続教育)認定プログラムです。

### 講 師 田村 圭子 (たむら けいこ)

新潟大学危機管理本部危機管理室 教授

兵庫県出身。2005年京都大学・博士(情報学)。専門は危機管理、災害福祉。京都大学防災研究所研究員、新潟大学災害復興科学センター特任准教授等を経て、2009年より現職。国土審議会(国土交通省)委員、復興推進委員会(復興庁)委員を務めるほか、内閣府、消防庁、新潟県、奈良県、新潟市、柏崎市、小千谷市等の各種委員会に関わる。著書に『12歳からの被災者学－阪神・淡路大震災に学ぶ78の知恵』(2005.1 日本放送出版協会、分担執筆)、『組織の危機管理入門－リスクにどう立ち向かえばいいのか』(2008.1 丸善出版、共著)、『ワークショップでつくる防災戦略』(2015.12 日経BPコンサルティング)など。



### ▶ お申し込み方法 **応募締切:2016年8月19日(金)**

下記のとおり、FAXもしくはメールでお申し込みください。

#### FAXの場合

以下にご記入のうえ、下記あて先までお送りください。

【会社(団体)名】

【連絡先(TEL)】

【申込者氏名】

(フリガナ) 参加希望者の氏名	CPD	(フリガナ) 参加希望者の氏名	CPD

#### 電話・メールの場合

上記の必要事項を、下記あて先までお知らせください。

※1.CPD受講証明書の可否について、「CPD」の欄に○×をご記入ください。

※2.聴講券は発行いたしません。お断りしない限り、申し込みどおりに受け付けます。

※3.申し込みにより知り得た個人情報、本シンポジウム開催にかかわる必要な範囲でのみ利用させていただきます。

### お申し込み・お問い合わせ先

一般社団法人 北陸地域づくり協会 「横田切れ」120年シンポジウム係

電話:025-381-1160 FAX:025-383-1205 メールアドレス:yokotagire120@gmail.com